

1W×2 LEDセンサーライト

取扱説明書

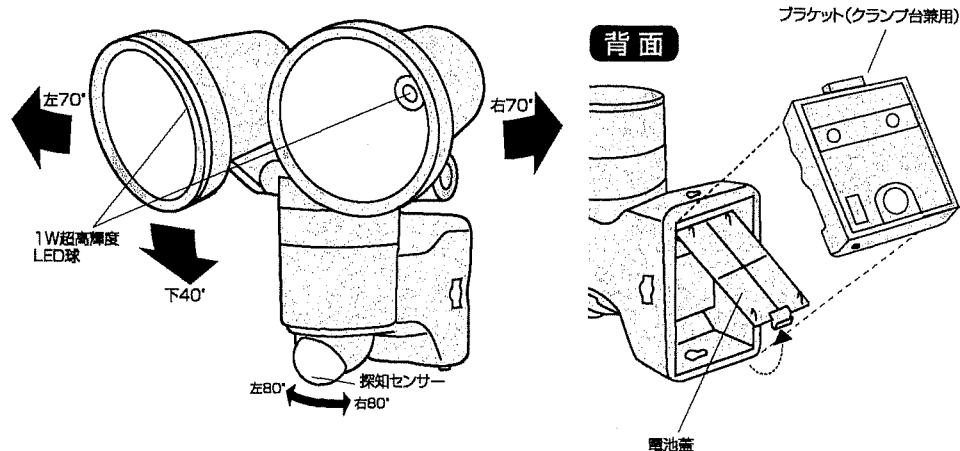
この度は、乾電池式1W×2LEDセンサーライトをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくお使いください。本書は、お読みになった後も大切に保管してください。

注意

気温・気圧等の気象条件の変化によりセンサーがまれに誤作動することがありますが、故障ではありません。時間をおいて再度ご確認ください。電池残量が少なくなればライトが暗くなり、点滅する場合や点灯しないことがあります。電池交換を行ってください。

1. 部位説明

ライト本体



付属品



蝶ナット



取付けネジ
(本体用)
×2本



プラスチック製プラグ
×2本



ネジキャップ



L型ボルト

2. 仕様

センサーライト	
電球	1W×2高輝度白色LED球
電源	単3アルカリ乾電池 3本(別売)
センサー	センサー検知方式 焦電型赤外線センサー
	探知範囲 約6m×水平約140°
明かり調整(点灯開始照度)	—
タイマー調整(点灯保持時間)	約10秒(固定)
本体サイズ	約幅163mm×奥行き120mm×高さ159mm(クランプ除く)
重量	約270g(クランプ、乾電池除く)
クランプ取り付けサイズ	・厚み/最小約15mm~最大約100mm
	・パイプ径/最小約30mm~最大約65mm
電池・バッテリー寿命	1日5回点灯で約5ヶ月(約150日) 電池性能、使用条件により変動します
設置場所	屋内、屋外用(防雨タイプ IP44)

3. 安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を防止する為に、必ずお守りいただきたいことを説明しています。安全にお使いいただくために、以下の注意事項を必ずお守りください。

■表示内容無視して誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。(下記は絵表示の一例です)

警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」を示しています。

注意 「けがや財産に損害を受けるおそれがある内容」を示しています。

このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

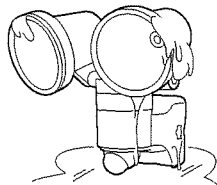
警告

ご使用や設置について

本体は大量の水がかかる場所に設置しない



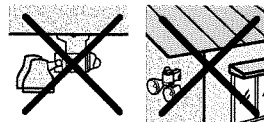
通常の雨、風には耐えますが、防水タイプではありません。※防雨構造はIP44電気機械器具の保護等級について許可を受けた規格です。故障の原因になります。



屋内・屋外に関係なく斜め向き、下向き、逆さまに取り付けない



故障の原因になります。



付属品を使用する



必ず付属品で取付け、配線をおこなってください。
落下、故障の原因になります。

引火性溶剤は使わない



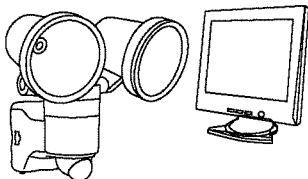
清掃のときは、水で濡らせた布を使用してください。アルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。火災、感電の原因になります。



家電製品の近くで使わない



テレビ、ラジオ、電子レンジ、蛍光灯、電話、ファックス、パソコン、OA機器や家電製品から2m以上離してください。故障、誤動作の原因になります。

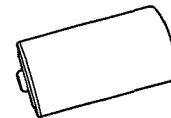


乾電池の異臭、発熱、変形に気が付いた時は



電源を抜き取り弊社までご相談ください。

乾電池を交換の時は

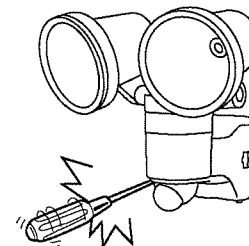


濡れた手や、本体が濡れた状態での、乾電池の交換はしないでください。感電、故障の原因になります。

分解や改造をしない



分解禁止



修理や内部の点検は、弊社にご相談ください。
火災、感電、故障の原因になります。

燃えやすい物の近くに取付けない



禁止



布や紙など燃えやすい物や引火しやすい物の近くには取付けないでください。
屋でも本体に物(布団や布等)を被せると点灯し引火する危険があるのでしないでください。
火災の原因になります。

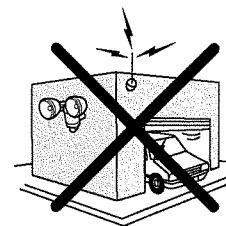
注意

ご使用や設置について

電波を出す器具の近くに取付けない



禁止



故障、誤動作の原因になります。

モーターや磁場を発生させる装置の近くに置かない



禁止



故障の原因になります。

※本機は探知範囲内に侵入する物(人、車等)に対して、注意を促しますが、盗難犯罪が発生しても一切の責任は負いません。
※製品改良のため、仕様及び外観は、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

4. センサーの探知範囲

■センサーは、最長約6m×140°の範囲で動く人や車を探知します。

※センサーに向かって左右に横切った場合は敏感に反応しますが、センサーに向かって直進した場合は、極端に探知が鈍くなります。図1、図2の条件に合う場所に取り付けてください。

※夏場の周囲の温度が高く、人からでる体温との差が小さい場合は、探知が鈍くなり、ときには探知しない場合があります。

- ・取付け高さが2mの場合の探知範囲です。
- ・取付け高さは最高3mまでです。
- ・取付け高さを低くすると探知範囲は、図より短くなります。

注意 電池の消耗を少なくする為、人や車の往来の多い場所の設置をさけ、また探知範囲を出るだけ絞るように、設置高さを低く、探知距離を短く、探知角度を狭く調整してください。

探知範囲

最長約6m×140°

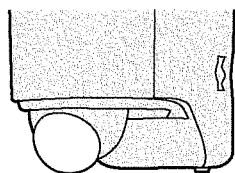


図1

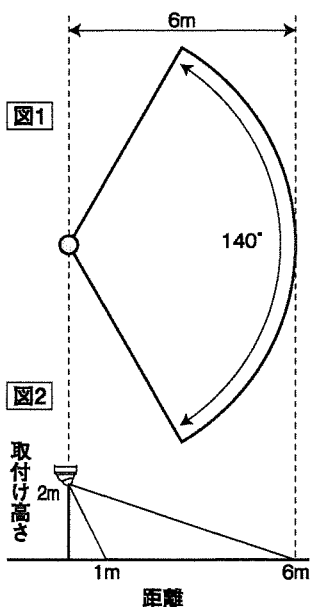
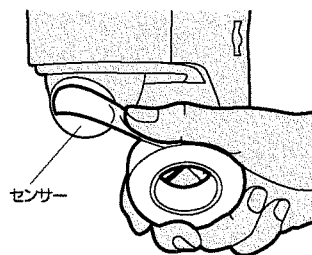


図2

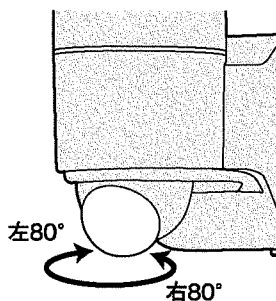
探知範囲を狭くする

- ・探知範囲を狭める場合はセンサーレンズに透明か白色のビニールテープを貼付します。(セロテープは薄いので2重に貼ってください)
 - ・上面に貼付すると探知距離が短くなります。
 - ・側面に貼付すると探知角度が狭くなります。
- ※センサーレンズ内に明かりセンサーも内蔵されていますので色の濃いビニールテープを貼ると夕刻や昼間でも点灯を開始する場合があります。



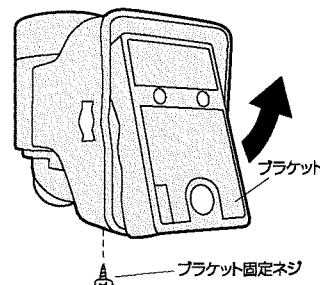
センサー左右角度調整

探知したい方向にセンサーを向けます。

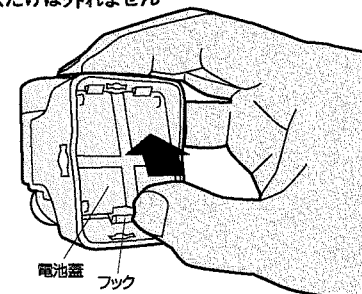


5. 電池の入れ方

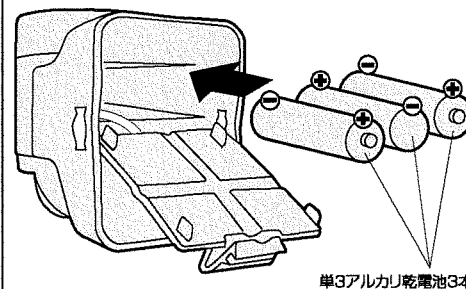
- ① ブラケット固定ネジをゆるめ、ブラケットを外します。



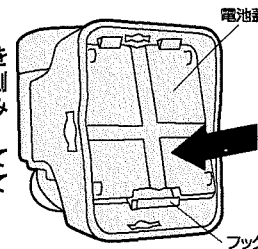
- ② 電池のフックを上げながら電池蓋を引き抜きます。※フックの下で固定していますので引くだけは外れません



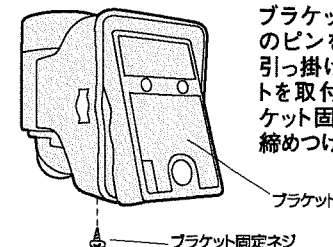
- ③ 単3アルカリ乾電池3本を入れます。※プラスマイナスの向きを間違わないように注意



- ④ 電池蓋の2個のピンを本体に引っ掛け下側をしっかりと押し込み電池蓋を取付けます。※フックを軽く引いて電池蓋が固定できているか確認します。



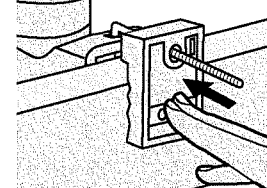
- ⑤ ブラケットの2個のピンを本体に引っ掛けブラケットを取付け、ブラケット固定ネジを締めつけます。



6. 電池の交換の仕方

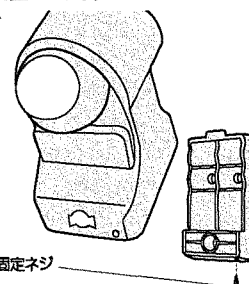
クランプ式で設置の場合

- ① 蝶ナットをゆるめ本体を外します。
※ブラケットがしボルトのネジに噛んで外れ難い時はブラケットの下部を押しください。
- ② 5項の“電池の入れ方”を参照に電池を交換します。



壁に直接ネジ止め設置の場合

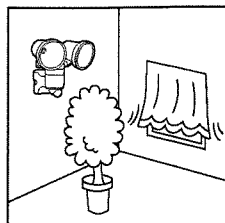
- ① ブラケット固定ネジをゆるめ本体を外します。
- ② 5項の“電池の入れ方”を参照に電池を交換します。



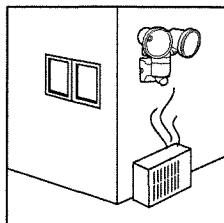
7. センサー本体の取付け方

ライト本体の取付け注意!

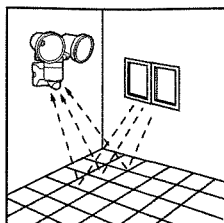
センサーは、周囲の明るさと温度変化に探知するので、図のような場所に取付けると、誤動作や作動しないときがあります。



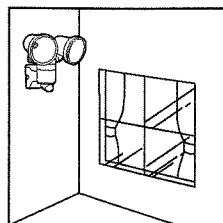
風などでゆれる植物やカーテン等の近く



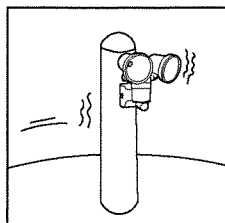
エアコン等の送風を受ける場所



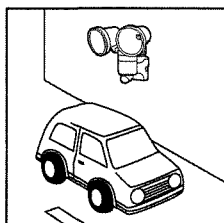
大理石の床や壁等の光の反射を強く受ける場所



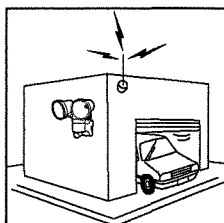
ガラスや壁ごしの場所



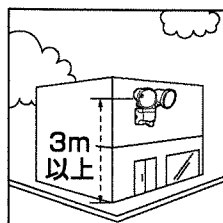
強い振動を受ける場所



車の通る道路に面した場所

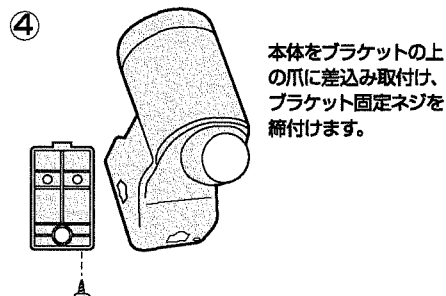
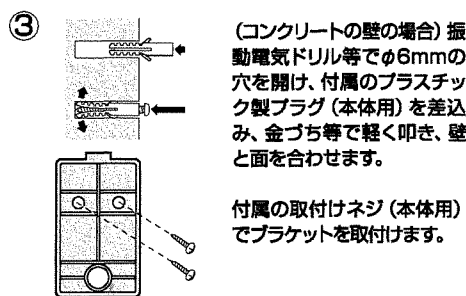
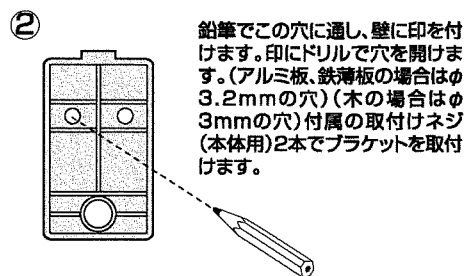
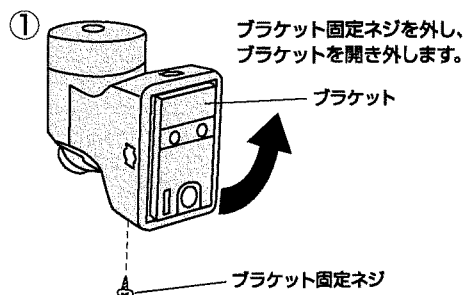


電波の強い場所



取付け高さが3m以上の場所

ブラケットで壁に直接の取付け方



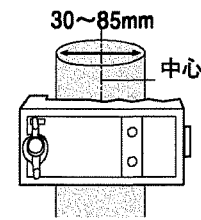
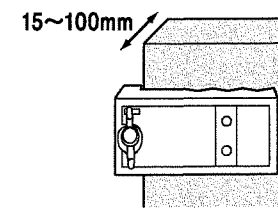
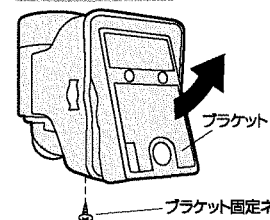
クランプで挟む取付け方

注意 クランプでの取付けは、万一落下しても事故の起こらない場所に取付けてください。

ブラケットを外します。ブラケットはクランプ台兼用になります。

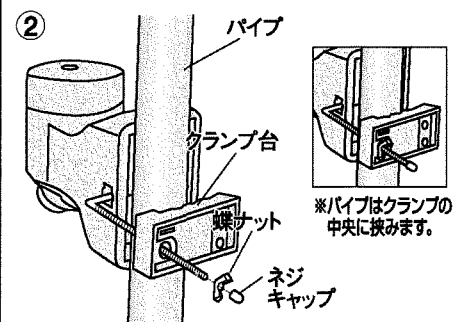
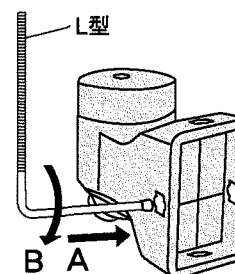
角柱・壁は奥までしっかりと入れて、挟み込んでください。

丸柱・パイプは大きさに合わせて挟む位置を替えてください。



上向きの柱、パイプの場合

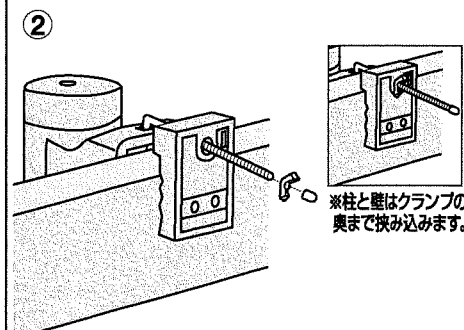
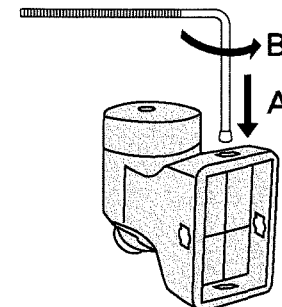
① ●L型ボルトをAの向きに差込み、Bの向きに90°回します。



●L型ボルトのネジキャップを取り、柱、パイプの間で、クランプ台を穴に通し、蝶ナットでしっかり締めます。ネジキャップを付けてください。

横向きの柱、パイプの場合

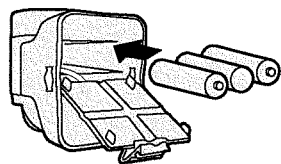
① ●L型ボルトをAの向きに差込み、Bの向きに90°回します。



●L型ボルトのネジキャップを取り、柱、パイプの間で、クランプ台を穴に通し、蝶ナットでしっかり締めます。ネジキャップを付けてください。

8. 基本動作の確認

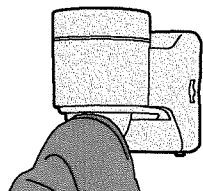
①



5項“電池の入れ方”を参照して電池を入れます。
※スイッチはありません電池を入れたら電源ONになります。

②

センサー部を完全に黒い布を被せ、夜間の状態を作ります。



点灯 ▶ 消灯

※約10後の消灯します。

③

黒い布に手を入れセンサーレンズに近づけ、点灯したら手を抜きます。



点灯 ▶ 消灯

※手を抜き取ってから約10秒後に消灯します。

④

基本動作の確認が完了しました。7項の“ライト本体の取り付け方”を参照に取り付けてください。
※上記の動作確認で点灯しない時は電池を正しく入れているか、また電池が3本共に新しいか確認してください。

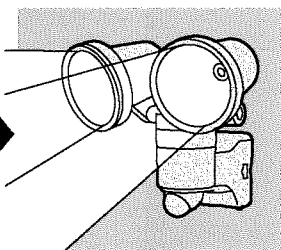
9. センサー探知の確認

①

7項の“ライト本体の取り付け方”と4項の“センサーの探知範囲”を参照して設置してください。
※人や車の往来が激しい場所や近くに設置すると不要な点灯や誤作動が多くなり、早く電池が消耗しますので設置をさけてください。

②

夜間の暗くなってから探知の確認を行います。



※昼の明るい時は点灯しません。

③

センサーの探知範囲に入り、点灯したら、センサー探知範囲から出ます。

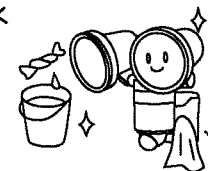
点灯 ▶ 消灯

※約10後の消灯します。

※探知範囲にいつまでも人が居ると点灯が延長され消灯しない場合があります。

10. お手入れの仕方

本体は中性洗剤をふくませた布で拭いた後、乾いた柔らかい布で中性洗剤が残らないよう、よく拭きとります。

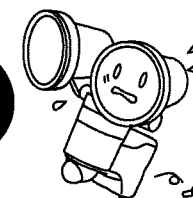


シンナー・ベンジン・磨き粉・アルカリ性洗剤・化学ぞうきんは変色や傷の原因となるため、お使いにならないでください。



本体の取付けネジやクランプは、年に1～2回ゆるみやガタつきがないか点検してください。

一年に
1～2回



11. 故障かなと思った時

現 象	考えられる原因	処 置
点灯しない 探知範囲に人がいるのに点灯しない。	電源が入っていない。	電池を入れる。
	昼また明るい場所に設置している。	明るい場所では点灯しません。
	探知範囲の設定が適切でない。	探知範囲を調節する。(センサーを探知させたい方向に向ける。)
	センサーに向かって直進している。	本機に向かって直進した場合、探知が鈍くなります。
	センサーレンズが汚れている。	探知部(センサーレンズ)をやわらかい布で傷が付かないように拭きとる。
	蒸気や雨などの水滴がついている。 寒冷地などで顔がマフラーで覆われている。 手袋をしている。	本センサーは人の動きによる温度変化分を探知するため、左記のような状況では探知しにくい場合があります。
	電池寿命。	新しい単3アルカリ乾電池に交換する。
点灯しない 周囲が暗いのに探知範囲に人がいても点灯しない。	探知部に他の照明器具の光が入っている。	他の照明器具の光が入らない場所に設置する。4項の探知範囲を狭くするを参照にレンズ上部に黒のビニールテープを貼付する。
消灯しない	探知範囲内に人がいる。	探知範囲外に移動する。
探知範囲に 人がいないのに 点灯する	探知範囲内に誤動作源がある。 (例)・他の照明器具・エアコンの吹出口 ・犬や猫などが動いている ・風などでよくゆれる物(看板、旗、植 物等) ・車の熱やヘッドライト ・強いノイズ(無線ノイズ等)	誤動作源を取り除く。 (左記に該当する物があれば取り除くか 本体を移動する。)
遠くの人や車にも 点灯する	取付け高さが高い。	取付け高さを低くする。 3項のセンサー探知を狭くを参照する。
探知範囲に 人がいるのに 消灯する	探知範囲内で人が静止している。	本センサーは静止している人は性能上 探知できません。
探知距離が短い	センサーレンズが汚れている。	探知部(センサーレンズ)をやわらかい布で傷が付かないように拭きとる。
	センサー方向がずれている。	センサーを探知させたい方向に向ける。
	周囲温度が30°以上ある。	センサーの特性上短くなります。
点灯回数が少なくなった	電池寿命。	新しい単3アルカリ乾電池に交換する。

12. サイズ

